令和３年度　第３回松本市基幹博物館１階活用市民会議　議事録【公開用】

１　日　時　　令和３年８月３１日（火）　午前１０時～正午

２　場　所　　松本市立博物館講堂

３　出席者

⑴　委員　　山村職務代理者　赤沼委員　大槻委員　金井委員
　　川舩委員　長谷川委員　渡邊委員

⑵　事務局　（教育委員会）　藤森教育部長　木下博物館長　中原建設担当課長
　　山村庶務担当補佐　三木建設担当補佐　小原事業担当係長
　　一ノ瀬主任　千賀主任　弘中主事
　　（文化観光部）　小原文化観光部長　小口観光プロモーション課長

⑶　傍聴者　報道関係者

４　会議の概要

⑴　開会

⑵　委員長あいさつ

中原課長　おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから第３回松本市基幹博物館１階活用市民会議を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。なお、益山委員長ですが、先ほど電話がありまして、お熱を出されたということで急遽、欠席ということになりました。また、山村職務代理におかれましては、30 分程度遅れてくるということを事前に連絡いただいていますので、本日、急なお願いでございますが、金井委員に山村職務代理者到着までの間進行を努めていただきたいと思います。金井委員よろしくお願いします。それから事務局の方では、小原文化観光部長が、公務のため多少遅れてきますので、よろしくお願いします。なお、前回に引き続きまして、本日の市民会議も録音させていただきますのであらかじめご了承ください。それでは、これより議事に入りたいと思いますが、その前に本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。次第の他に、別紙１から４までの資料がございます。１番と２番につきましては、２番が各委員さんからいただいたご意見の原本になりまして、それを事務局の方で簡単にまとめさせていただいたのが資料１です。それから、資料３と資料４につきましては、後程ご説明させていただきますが、博物館の学芸員による１階の見直しの検討案ということで資料をつけさせていただいていますので、よろしくお願いします。それでは早速でございますが、金井委員、委員長席で進行のほうよろしくお願いします。

⑶　議事

ア　１階パブリックスペースの活用案等について（各委員より別紙２の説明）

金井委員　突然のことではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。山村職務代理者もおそらく途中でお見えになると思います。さっと退席する気持ちでおりますので、よろしくお願いします。まずは次第に沿ってということになりますが、議題１、１階パブリックスペースの活用案等についてということで、資料は、別紙の方の、１、２、３、４とある内の１と２になりますが、１の方は事務局のほうで取りまとめいただいたものですので、これはちょっと置いておいて、別紙２に沿って委員各位のご意見の確認を進めて参りたいと思

います。よろしくお願いいたします。別紙１を見ると、１、２、３の項目ごとの取りまとめですので、この形に沿って、この場でも１、２、３の項目ごとにご意見の確認を進めます。別紙２の最初のページをご覧いただきたいのですが、ご欠席の益山委員長のこれはご意見ということになりますが、１のところ１階パブリックスペースの具体的な活用案（事例を含む）についてというところをまずは進めさせていただきます。１番目、例えば市民のアート作品や他の博物館のコレクションを定期的に展示する。２番目、松本城のボランティアガイドに常駐してもらい、博物館でガイドの受け付けができるようにする。３番目、ＱＲコードでアプリをダウンロードし、市内の観光スポットで音声ガイドが聞けるようにする。音声は地域ボランティアに協力していただくということで、この３つのご意見について、事務局のほうでは社会教育と、それから観光集客といったところに振り分けて、確認されているところであります。これから皆さんから、それぞれご発言いただければと思います。一通り皆さんのご意見を伺った段階で、質疑応答といいますか、それぞれのご意見の中で、特にここが良いのではというところを意見交換できればと思っております。次ページを開くと山村職務代理者のアンケートですので、これも読ませていただきます。山村職務代理者からは、１階パブリックスペースの活用、人々が集い、松本の有形無形の様々なものをつなぐハブの役割を期待したい。そのためには、ソフトコンテンツと市民力、それらを生かすコーディネート力が重要となる。市民講座や習い事、料理教室、外国人向けの日本語教室や浴衣レンタルなど様々なネタが考えられるが、それらにかかわっている市民が繋がり、市民による発信ができればにぎわいが生まれると思う。それによる市民参加や、観光客向けの情報発信や交流の場として、松本まるごとインフォメーション的な役割が果たせたら面白いということです。インフォメーションですね。全体的なイメージをお書きになっています。市民サポートセンターと観光コンベンション協会のアップグレード版、具体的な例は控えるが、松本の市民力を最大限生かした松本スタイルを構築できればと思うというところで、山村職務代理者がお見えになりましたので、進行を交代いたします。

中原課長　金井先生どうもすみません。ありがとうございました。

職務代理　すいません。仕事の関係で少し遅れました。金井委員大変ありがとうございました。おそらく最初で最後になる記念すべき司会ということですので、取りまとめを思う存分やらせていただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは、早速進めてまいります。１階パブリックスペースの活用案等についてということですが、お手元の資料で、別紙１というのが、活用案について委員の皆さんからいただいた意見を事務局の方で取りまとめていただいているものです。ざっと皆さんのアンケートを読ませていただいたところ、思いの部分では結構皆さん共有されていて、同じような方向を向いているのかなっていうのが私の感想です。アンケートに３つの設問がありました。まず一つ目が、パブリックスペースの具体的な活用例、活用案ですね。二つ目がミュージアムショップとドリンクコーナーについて、三つ目が、管理運営に指定管理者制度を導入することについてということを皆さんに伺ったところです。ディスカッションに入る前に、こちらに関して各委員の皆さんから、どのように考えているのかというところを、ここに書けない部分も含めて、付け加えていただければと思います。皆さんからご意見をちょうだいできればと思います。いつも同じ周りでは不公平かもしれないので、Ｆ委員から反時計回りにお願いします。

Ｆ委員　はい。おはようございます。よろしくお願いします。新しい博物館を作る計画をしたと

きに、確実に何をやろうとしたかっていう資料があるはずだと思うのです。これをもう１回しっかり見たいなっていうのはあります。我々は博物館１階の活用についてゼロベースで考えているようなイメージがありますが、これだけの建物を建てるって決めた時には、当然パブリックスペースでこういったことをやっていきたいっていうのがしっかりしているはずで、これをちゃんとやったほうがいいのではないかと思いました。なので、もちろん学芸員の皆さんのご意見もしっかり取り入れつつやっていきたいと。あともう一つは、博物館というところで何をやってもいいのかというクオリティの問題について話があったと思うのですが、どんなクオリティでもＯＫにするのかどうか。ここ難しいところだと思います。ある一定の博物館たるクオリティのレベルを維持するべきなのか、それは２階３階の役割で１階はいろいろと自由にやるべきなのかってことを、基本的な方向性は決めていかないといけないのかなと思います。博物館というあれだけの建物の中で、本当に素人がライブをやっていいのかとか、本当にそういうイメージです。なので、どこまできちんとしたものにするのかっていうのは、１つカラーを決めていかないけないといけない。ミュージアムショップとドリンクコーナーに関しては、正直あまりイメージがないので、オリジナリティーを出していくということがポイントかなと思います。Ｃ委員のところにも書いてありましたが、まず博物館の役割が何なのかってところに立ち返ると同時に、もし、お土産ショップ、飲食みたいなところを設置するのであれば、その役割は何なのか、集客なのか、来てくださった皆さんに対してのちょっとした憩いの場なのか、目的がはっきりしないといけないなと思っています。山崎さんが例えばＯＫしてくれるかどうかちょっとわかりませんが、舞台とか映画で作るいろんな作品って、その周辺にそういった業者さんがたくさんいまして、例えば発泡スチロールですごくリアルなものを作るとかってこともできますので、そういったものをうまく活用して、しょっちゅう変えていくことができるのではないか。ずっと同じではなくてというようなイメージです。あと指定管理者に関してはあんまり詳しくないので、大事なこととすれば、任せきりになって我々が何か気持ちも離れて、近くに住んでいるのに行きもしないっていうような状態になっちゃうと残念だなというような意味合いで書きました。なので、全否定ではないです。指定管理を全否定するわけではないですが、どのようにして、我々市民が携わっていけるのかなっていう、どのようにして関わっていけるのかっていうのを、すごく考えないといけないことだと思います。以上です。

職務代理　はい、ありがとうございます。それでは続いてＣ委員、お願いします。

Ｃ委員　　事前に送っていただいた資料といいますか、意見をざっと一昨日見させていただいて、いろいろ感じるところはあったのですが、基本的に共有されているようなイメージがありました。まず、私がなぜここに来ているかということになりますと、そもそも地元等の意見も必要だというようなことの中で、大した知恵もない私がここに来ることになったわけですが、そういう意味合いからしても広く博物館単体での集客っていうよりも市街地の回遊ですとか、そういうことへのハブといいますか、情報を発信する拠点という意味合いも含まれるのではないかっていうふうに私は思うのです。小口課長さんなんかも再三おっしゃっていますが、そのハブというようなことでの位置付けっていうのが大切ではなかろうかと思っています。２階３階の部分については私どもがいうことではないのですが、１階については大きなスペースがあるのならばいろいろなこともできるのでしょうが、できるだけわかりやすい使い方。私が書かせていただいたのは「なんかやっているからちょっと行ってみようよ」とか「なんか面白そうだからちょっと寄っていこうか」っていうような

ことを声かけ合っていけるような場所になればいいのではないか。それが２階３階に繋がると言っちゃあ失礼かもしれないが、基は２階３階の博物館のところでしょうが、１階のスペースについてはそう思います。先だってＧ委員のほうから子どもの場所っていうものについては、子どもだけで行ける場所でもないので、なかなかそういうアミューズメントパークみたいなものだったらそれはいいかもしれない。家族そろって楽しみながら行くっていうようなことでいいかもしれないけども、それだけの大きなスペースがないところで、あれもこれも、あれもこれもって突っ込むのもなかなか難しいのかなと。だから基本に立ち返って、博物館がどういう、博物館サイドからすれば、この場所に移ることについて、不幸にしてみたいなそういうニュアンスのコメントがちょっとあったのですが、天守閣から離れることで、集客が少し見込めない可能性があるので、やっぱり何かその集客をする手だてはないだろうかというようなことがあったのですが、でもそうではなくて、私の立場とすれば、やはり地元ということを考えますと、広くやっぱり松本の市街地の回遊性だとか活性化とか、そういうことに繋がるような、その発信の拠点というものを大事に考えていただきたいなと私は思います。それでミュージアムショップやドリンクコーナー等については、それぞれの町の中にいろんな専門店もございます。お土産物屋もあれば、私も飲食店をやっていますが、飲食店もあります。なので、そういうところをご案内できるような情報発信ができるような形になっていれば、博物館の中でおいしいステーキを食べようとか、各国の料理を食べられるコーナーを作ろうとか、博物館だけで完結できるだけのスペースもないと思うので、それは町を回っていただくというような形に繋がってもらうのが一番で、場所としても、そういうことが求められているのではないかと思っています。３番目の指定管理について、私は指定管理っていうものをよく存じ上げないのでわからないのですが、ただそれぞれいろんなファクターが今後求められる中で、やっぱりＡ委員も書いていらっしゃるように、各部門の部門ごとにいわゆる管理をするのか、或いはいろいろいろんな役割分担をしてかないと、一つの団体なんかで全部管理運営をしていく、指定管理のような形っていうのはなかなかやっぱり難しいのかなと感じるのです。そんなところです。

職務代理　はい、ありがとうございます。それでは、一通り皆さんのご意見を伺いたいと思いますので、Ｂ委員お願いいたします。

Ｂ委員　　私のほうから、１階のパブリックスペースと具体的活用案って形で出したのは、前回の会議でも申し上げたのですが、松本城を中心にして、旧開智学校、それから今回の博物館っていうのは一つ一斉のところに繋がりますので、特に、松本駅方面から来た観光客の方たちの水先案内的な部分があってもいいのではないかなと。皆さんのご意見の中にはあったのですが、そういう形の中で、現在、大手事務所の中にある観光情報センターあたりは博物館のほうへ移していただいてもいいのではないかな。そこで、いろんな街歩きとか、また、先ほどから出ていますように、いろいろな質問にも答えられるような情報発信の場所になっていただければいいのではないかなと思っています。また、それに伴って、松本城だとかそういう入場券等の問題等につきましても、場合によっては、もう博物館のところで手に入りますよというような形での販売等もしてもいいのではないかなと思っています。先ほど、Ｆ委員、Ｃ委員のほうからお話ありましたように、やはりあそこが一つの拠点になっていただいて、街歩きというような形の中でもって、観光客が動いていただけるような情報発信の場所になっていただくってことが、一番いいのではないかなと思っています。それから、あそこの場所の使い方ですが、やはり南の道路に面したガラス面とか、そ

れから当然、博物館の入口のところにもちょっと広場がありますし、前の鶴林堂さん跡の敷地等もありますので、そういうところをどういう形で使っていくのかっていうのは、今日も読ませていただいて、皆さんの意見の中でいろいろな位置感も含めて出てきていますけど、それを毎日やるってわけにはいかないと思いますので、いかにそのイベントとそういうことが、うまくコラボできるかということを考えたほうがいいと思います。例えば、南側の壁、ガラス面の使い方も、いつも同じものを飾っておくのではなくて、お祭りがあるので、お祭りの関係のものを飾るとか、関係している諸団体のいろいろな発信の場になってもいいのではないかなと。場合によっては、そこに少し企業さんの宣伝のようなものが入るようなケースがあっても、それが常時じゃなくて、時々そういうイベントに合わせたような形のものができるとしたら、それも一つの方法論ではないかなと思っています。２番目はミュージアムショップとドリンクコーナーについてですが、先ほどＣ委員のほうからお話あったように、周りは商店街ですので、博物館が本当に集客できるようになってくれば当然、民間のいろいろな目的の中でいろんな店を周辺に作っていきたい。今ない店もできてくるという可能性はあると思うのです。逆に、ミュージアムショップの中でもって、もちろん販売するものっていろいろあると思いますが、できれば、収蔵物だとか、そういうことに関する図録とかそういうものを、今までを見るとやはり古いものが多くて、どちらかというと、その研究発表みたいな形のものが多いのですね。ところが今、新しい図録なんか見ますと、一つの物品の図録じゃなくて、その周辺の管理、所蔵しているものだとか結びつけて、新しい図録の作り方みたいのも結構できてきていると思うのです。だから、そういう図録等も少し工夫をしていただいて、やっぱり欲しくなるような図録を出していただければありがたいなと思っております。それから３番目の指定管理の問題についてですが、これは前回ちょっと私の方から申し上げましたけれども、どのような分野での指定管理にするかということが決まらないと、なかなか難しいのではないかなと思っています。当然博物館でございますので、ものの展示のスペシャリストも必要ですし、それから学芸員さんの研究の場であり発表の場であるということがあるわけですので、そういうものをどういうふうにとらえていくかと。例えば、指定管理者の皆さんのところでも、最初から学芸員さんも指定管理者のほうで雇ってくださいと。そういう形の中でやる方法もあると思うのです。ただ、そこら辺のところをどういうふうに維持していくか。また、長い目で見たときに、それに対応できる指定管理者が本当にいらっしゃるのかってことがわからない部分もありますので、ここら辺っていうのはもう少し論議をきちっとして、土台ができてからじゃないとなかなかやっぱり難しいのではないかなと思っています。建物の管理のための指定管理。今も、こちらのほうにも当然掃除とか入られていたと思うのですが、そういう形につきましてはあってもいいと思います。ただ私も長年、博物館に関わってきて思ったのですが、例えば、展示物の清掃とかいうような形のものって、指定管理者ができるかどうかというと、正直言ってできない部分があると思うのです。やはり学芸員の皆さんだとか、手馴れた技術を持った方がしないと難しいという部分もあると思いますので、そういうところも含めてご検討いただければと思いまして、短い形で書いたのは、ちょっと言い切れない部分があったものですから、そんな形にさせていただきました。

職務代理　はい、ありがとうございます。それではＡ委員お願いします。

Ａ委員　　今回具体的にアイデアを書くということで、何かお手本になることはないかなとかいろいろ見始めたときに、東京芸大の熊澤先生の御本の中で、ちらっとアムステルダムの市立

の博物館の紹介があったのです。これホームページで十分その活動の幅がわかって参考になるのですが、端的に一つ申し上げると、博物館とは何かという問いに「市民のミーティングプレイスだ」と言っている。これがなかなか、確かにそうだなと思ったのです。ミーティングっていう言葉、何気なく使っていますが、ミートですから、まず会うこと・出会うことっていうのが大切で、いろんな形でまちに関わっている人々、市民が出会う場所、出会うだけではなくてそこでもちろん会議、ミーティングも行えるといったような、そんな場として、水平な視点でミュージアムを考えることが多分重要なのだろう。オランダ、アムステルダムの例で言うと、どうしてもかつての貿易大国であり、或いはレンブラントを生んだとか、そうしたイメージが強い。それを支えた黄金のアムステルダムっていうのがあるのでしょうが、それよりも、傍らにあるオランダの歴史、或いは第二次世界大戦中の非常に重いオランダの歴史などについても、市民がそこにミートしてミーティングするっていう、そうした場に私たちの市博も、これまで以上に、さらに変貌というか、発展していけるといいのではないかと思います。それを私なりに言うと、ミュージアムを名詞としてとらえずに、動詞として、緩いですが「ミュージアムする」くらいの気持ちで考える場所が１階なのだというふうに捉えています。おそらく２階３階は、もう学芸の方がこれまでの蓄積を生かして、ある意味では価値の定まったソリッドな展示を作られる。そこで確かに重要な内容が示されるとすれば、逆に流動感のあるもの、拡張するもの、未来に繋がるもの、やや得体の知れないものも含めてですが、そうしたものをミュージアムする。そのための場としての１階をデザインできればと思うのです。ということで、１番の方に書いています。くつろぎ学び楽しむ市民の姿をまずは生み出しませんかと。アムステルダムの市立博物館がミーティングプレイスであるならば、松本市博１階はミーティングテーブル。誰だってそのテーブルにつけるぐらい、その裾の広がったテーブルを一つ作るのだ。くらいのイメージで、集う市民の姿をまず思い描こうということです。そのための活動については、もろもろ書いています。多少美術館系の活動と乗り入れるようなことも書いていますが、ご覧いただければと思います。重要なのは、真ん中ぐらいに書いている、ネクストミュージアムです。将来の博物館資料について、例えば展示しつつ、語りつつ集う場とか、そうしたことが大切でしょう。現在のことで言うと、例えば、もうすでに取り上げられているところも結構ありますが、現下のコロナウイルス感染症を将来に向けて展示にしていくには一体どういう協働が市民と学芸の皆さんと可能なのかとか、こうしたこともおそらく１階の有意義なテーマになるのではないかと思います。加えて、前回申し上げましたように高校生の探求学習の支援であるとか、大学関係もあるだろうと。それからもう一つ、多少強調してみたいのですが、真ん中あたりに書いている、周辺博物館の紹介ということで、安曇野市の施設に触れている部分。ここが先ほどのアムステルダムの話とも結びついているということでご理解いただければと思います。城下町松本、お城のある町というこの売りはもちろんとても重要なのですが、そうした近世の城郭都市がどのような形で形成されて、そして今日私たちがその遺産を享受しているのかといったことを考えたときには、例えば貞享騒動のような歴史に対するパースペクティヴも必要であろう。それが、もし２階３階の展示で語り切れないとすれば、ぜひ安曇野市に行ってご覧くださいというような、かつての松本藩領を念頭に置いたネットワークづくり、これも１階で徹底的にやる必要があるのではないかと感じております。その他、例えば市民提案を受入れる仕組みづくりも前向きにご検討いただくほうがよいでしょう。２番目、ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについてなのですが、確かにそもそも論から言えばなぜ必要なの

かから問うべきかもしれませんが、そこまではあえて考えずに、グッズからカフェに繋がるような空間構成を、と書きました。こういうのはなかなか言葉ではイメージできない、説明が難しいので、具体例をいくつか挙げたらいいかなと思いましたので、群馬のアーツ前橋の１階。或いは繋がり方という点では、京セラ美術館の１階。つまり、プロジェクトルームとミュージアムショップとレストランが横一線で繋がっている様子とか、あの開放感などもなかなかいいイメージじゃないかなと思いますので付け加えたいと思います。それから、カフェなどで何ができるかということで、市内のブックカフェ、クラフト系ギャラリーのカフェを参考にと書いていますが、加えて、具体例として紹介したいのは、かつて学生や市、「工芸の五月」のみなさんと一緒にやった企画です。まず松本市内の和菓子屋さんにお菓子を提供していただき、それを枡形広場でお茶といっしょにお客さんにふるまう。そのときに、試食用としてただ食べてもらうのではなくて、なぜその店が松本に根づいたのかを、しっかり学生がお客さんに説明したのです。さまざまな人の関わりが生まれて、とてもよい空間になりました。それから、もう一つ、２番目のところ、真ん中ですが、開かれた空間と考えていくと近辺の施設とのリンクも考えたい。例えば信毎メディアガーデンの１階、或いは３階のテラス。こうした場との関係をどう作っていくのか、或いは今申し上げた枡形広場のような空間とどう繋がるか、都市空間のネットワークにも意を向ける必要があるのではないか。さらに言えば、松本市美術館のショップやレストランとどう繋がるのかということも考えねばならない。あるいは、そもそも、お城のすぐそばで一体どのようなショップが、或いはカフェが展開されるのかということも同時に考えていかないと、なかなか、博物館のコンテンツの議論にまでたどり着かないように思いました。要するに、より広いエリアで考えながら、この２番については最適解を探る必要があるだろうということです。それから３番、最後の指定管理の話題なのですが、(1)としてまず館全体に対する考え方ですが、市美術館の運営方法を参考にすることは、あり得るかとは思います。正解が導き出しにくいところではありますが、例えば市美術館のように、学芸部門は直営、管理部門は指定管理というふうに切り分ける。その場合、１階の学芸教育普及事業は、やはりこれ学芸の担当のほうがいいのではないか。つまり先ほど来申し上げている通り、ある意味では１階の活動が「ミュージアムする」ことの熱源というかエネルギー源でありますから、これを学芸が手放すべきではないだろうという発想です。つまり学芸の本分として向き合うと。ただ、そうしたときに、現在の学芸の皆さんの配置で十分なのかということは、私は押さえきれていないです。専門職の追加配置はやはり考えるべきではないかということです。以上の案はある意味では標準的な考え方かと思います。(2)は、あくまでも仮の、大きな話として書いてみているのですが、例えば１階の全業務を、もう指定管理だっていうふうに方針を出すとすれば、その時の考え方として、既存の芸術文化振興財団がこれを受けるってことはあるだろうか。あるとすれば、同財団の実施事業の見直しが必要。すなわち、施設管理を主とする現状から、もっと総合的に文化芸術支援を行う組織へと発展させ、むしろその拠点として、博物館のための１階ではなくて、松本市全体の文化芸術政策の拠点として１階を発展させていく、それぐらいのパースペクティヴが必要だろうということです。ちょっと話が飛ぶのですが、例えば静岡市などは割とこれに近い形を展開していると認識しています。まとめますと、(１)は博物館軸を重視する立場、(２)はもっと文化芸術のネットワークを広げる立場、縦にしっかりやるか、横にぐんと広げるかということで、両極端なのですが、ただ、ある程度攻める上では、こうした発想をご検討いただくことも重要だと考えております。すいません。以上です。

職務代理　はい。ありがとうございます。それではＧ委員、お願いします。

Ｇ委員　　私が考えた時に、表にすると、社会教育ばかりだって思ったのです。平日の観光とか、そういう人があまりいないときの博物館の価値っていうか、そういう利用と、コロナが治まって、年代問わず、いろんな方がお城や松本の町中を歩くような、休日とか、繁忙期の時と分けて考えていました。そして、平日の方で考えるということで、そこに書きつづったものが私の考えです。平日来館できるのは、学校、小中学生のような、そういう指定団体でなければ難しい。一つは、これからを考えると高校生とか大学生とか自分の足で動ける人。意識してやっていくってことが大事だ、必要じゃないかなと。そのために書きましたが、集まって、そこに行くと誰かがいて、博物館の企画がきっかけということもあるでしょうし、高校の学生の仲間で集まることもあるでしょうけども、やっぱり制作とかワークショップとか、そういうことをやっていく。或いはそこに行くと「こういう展示が見られる」「写真が見える」「市民の方がいつもそこで展示発表ができる」というような場で、高校生大学生に限らず、いつも平日、市民の方が訪れて自分の作品を発表したり、仲間で相談したり、そういう場になればいいかなってことを思います。図書館はもうどこに行っても割と学生さんにニーズがあって、勉強の場所として一定の時間いるなど、いろいろ集う場所です。暑い夏、寒い冬にどこへ行ったらいいのっていう時に、こういう博物館や図書館って、そこに行って快適に過ごすことができて、また周りにもふっと目を止める、気に留めるっていうことがあるのではないかなと。平日はそういった利用ができるような雰囲気にしたらいいのではないかと思ってそこに書かせていただきました。皆さんの「ふらりと寄ってみる」「くつろいで見る」っていうような、いつも何かやっているねっていうようなそんな場所。平日は特にあるといいなってことを思います。そして休日について、②のミュージアムショップ、ドリンクコーナーについてなんですが、休日の人が集まる時に、平日に使っていることが邪魔をしないようにということで、そこに書きました。まず、休日大勢歩いている人たちが気持ちよく寄ってみたいなっていうような内容であるってことが、特にミュージアムショップやドリンクコーナーなんかは大事かなってこと思っています。それが実現できないようであれば、特にドリンクコーナーのようなものは、他にいいお店がありますので、やはりなくてもいいのではないかというようなことを思いました。私一番考えた時に悩ましいなと思ったのは、博物館の開館時間です。８時半から１７時っていうことだと、一つの活動が終わってもう閉まっちゃうっていうことになって、平日に集まれないので、１時間遅く始まって１８時ぐらいまでとか、１８時半まで開いていれば、松本駅の電車に乗る高校生がそこまで行ってみようとか、学校が終わっていけるのではないかとか、そんなような感じになるのかなってことを思いました。あとについては書いてある通りで、ちょっとそれ以上のこと言えませんので、以上にしたいと思います。

職務代理　はい、ありがとうございます。それではＤ委員、お願いします。

Ｄ委員　　はい、まずは一般のパブリックスペースのところに二つ書かせていただいておりますが、一つが市民学芸員さんの居場所を作っていただきたいなと思ったところを書かせていただきました。いろんな活動をする中で、市民と観光客と職員さんをつなぐハブの役割っていうのが学芸員さんじゃないかなと思ったので、そういう方々が活動する、裏でやっているのではなく、表でいろんな企画をしていたりすると、集まりやすくなったりするのかなと思ったので、居場所をお願いしてみるかなということで書いてみました。もう一つは、子どもコーナーのところは、ちょうど、この宿題を提出する日、締切日に鳥取県にい

たので、現場の写真を撮ってきたのを次のページに何枚か載せていただいているのですが、これは旧県立図書館と、鳥取のわらべ館で、前回もお話をしたのですが、旧県立図書館と何かの施設を壊そうかというときに、活かそうということで「おもちゃと童謡唱歌の館」として建て直して使っている。現在も使われていて、来館した日にたまたま訪れていたのが現地の親子連れさんだったり、小学生が集まってきて遊んでいたり、あと観光客の方がいらっしゃったりで、地元と観光客が適当にまざっている面白い場所だなとずっと思っていたので、その現場の写真を撮ってきました。子供コーナーもいろんな仕掛けができるかなと思うのですが、レトロにすると外国人の方は楽しい。あとシニアの方は懐かしい。子どもたちは今、けん玉とか市内の小学校で取り組んでいたりするので、けん玉自慢したりしている。昔遊びっていうのは、手先を使うなどとてもいい遊びが多いので、携帯でばっかり遊んでいる子たちがこういう遊びをしてくれるといいなと思っているので、そんな博物館らしい子どもコーナーっていうと、こんな切り口もあるなと、ちょっと昭和が甦るような作りのものを載せさせていただいております。１階について私はその辺を具体的に書いたのですが、二つ目のミュージアムショップとドリンクコーナーは悩ましいなと思っていて、近所にやっぱりお店がいっぱいあるので、中で頑張らないでいいなと思います。要望としては、こういう場所が欲しいってパブコメにも書いてあったような気がして、でもそんなのちょっと 50 メートル歩けばお茶する場所がある中で頑張らないけど、にぎわいをということで考えたときに、飲食店さんたちで困っているのは、コロナの後お店を閉められてキッチンカーに大分シフトされているのですが、割と行く場所がなくて行き場所に困っていたり、作ったのだけど出動していないキッチンカーがいたりで、そうすると、お家賃をちゃんと払っているところとの差がついちゃいけないので、ちゃんとお家賃もいただいて、キッチンカーがこの配置図見ると、行く場所ないなと思ったのですけど、その周辺にちゃんと場所代をいただいたキッチンカーがきて、軒先で飲食していただく。何かあるねっていうような場所になるといいし、市民の皆さんが行く場所になるなと思いました。ミュージアムショップも同じで、クラフト作家さんの作品は１個の単価が高いので置いておけば売れるってことでもないと思うのですが、作家さんとしゃべるのがクラフト。ホームピクニックとかクラフトの５月の工芸なんかの楽しさだったりするので、考えたのは、ベトナムとかに行ったとき、私たちどこに行くかっていうと、なんていうかあれ商店街じゃなくて、豚肉ぶら下げている横で化粧品とお皿を売っているって感じで、屋台じゃなくて、なんかこう、売っている人がちまちま売っているっていう。クラフトやお茶屋さんとか、飲食との線引きをどうするかわからないのですが、いろんな人がちまちま出店しているっていう、日替わりでみんなきて、３日間は博物館に出店して販売していますとか、市民の人が来て商いをする。交流をする。そんな場を提供することで、博物館が在庫を抱えて、売れないお土産を売るよりは、在庫を持たずに、商いをする市民の方から場所代をいただくっていう方が、少し経営にも貢献しつつ、にぎわいもできるかなと思いました。最後の指定管理のところはよくわからないので、わかっている範囲で書きましたが、前回も話した通り、マーケティングと施設管理とは分けていただいた方が得意な業者が出てくるかなと思いました。以上になります。

職務代理　はい、ありがとうございます。それでは最後私のほうのアンケートになるのですが、私のほうでは、アンケートをいただいた時に、これまでの会議の中でもいくつかキーワードになっている部分も含めて、ちょっと思いの中で書いたということになります。まず、大事にしたいところっていうのが、博物館というのが、松本の歴史とか今まで通りの踏襲し

たものであるのであれば、何も大名町にある必要はないのではないかというところ。それが大名町の大通りで、本当に人が集うところにできるということは、それなりの意味がある。もっと言えば、意味を持たせないといけないというところで、それが大前提。そんな中で、まずキーワードになるのは繋がる、これハブですよね。繋がる、紡ぐっていうのはすごく大事だと思います。これは過去と未来を紡ぐもそうだし、人々を紡いでいくっていうか、織り成していく、松本は繊維で成り立った町っていうのもあるのですが、紡ぐっていうワード、それともう一つは、それを動かすために何が必要かって言った時にやっぱり市民力なのです。それと同時にソフトコンテンツっていうのが重要です。もう一つは、いろいろ要するに、とにかくワクワクできる場所であるというところ。こういったいくつかのキーワードを前提として、何ができるのかなというところで考えてみました。まず１階のパブリックスペースなのですが、皆さんの発表にも多々あった通り、やっぱり市民が集い、市民によって発信されていくようなところで、なおかつハブとしてみんながこう集まれる。老若男女いろんな人たちが集まれる。感覚としては、松本大集会所みたいな。そんなようなイメージで考えました。ちょっとこれは語弊があるといけないのですが、すごくイメージしやすい。既存のものでいうと、観光コンベンション協会っていうのは観光の窓口で同じ通りにありますし、同じ建物内に市民サポートセンターっていうものがあります。これが本当にブラッシュアップされて、グレードアップして、そこに入れば、もうそのまんまいけちゃうのではないかっていう僕はそういう思いを抱いております。２番目ですが、ミュージアムショップやドリンクコーナーというものに関しては、これに関しては、皆さんおっしゃるように、私は博物館の中にあるインショップが他の店と競合店になる必要はないと思っています。私のちょっと手前みそな話で申し訳ないのですが、私が今ちょうどこういうような事業をやっているものですから、その経験上も含めて話をさせていただくと、どうしても売りたいものっていうものと、利益に繋がるものっていうのはやっぱり違うのです。そこをきちんと理解しないと、ただの飲食店、ただの土産物屋になってしまうっていう、ここは非常に難しいところで、私のイメージは、ちょっと道の駅なんかもやっていた経緯で、道の駅は皆さんイメージされるところで言うと、野菜を大体売っています。この野菜っていうのは地元の皆さんが朝取り野菜を持ってきて、そこに自分でシールを貼っていくのです。施設としては、それを委託で販売する形をとっています。これが大体施設によって違うのですが、10%から 15%ぐらいを施設のほうはいただくと。なので、８割５分、９割を生産者の方が持っていくお金っていうのが大体の流れです。これでいうと、それは主に今、野菜という中でやっていますが、あそこのインショップもそれでいいのではないかっていうふうにちょっと思ったりしていて、例えばですが、スイートさんのパンを持ってくる。紫陽花さんの何かドリンクやアイスクリームを持ってくる。そこはいろんな人たちが持ち寄ってきたものを売る場所。それもどちらかというと、持ち寄ってきた事業者の皆さんに還元できるものっていうようなイメージ。お土産の方も、多分その流れでできるのではないかっていうか、販売のほうも町の市街地のみならず、松本市中のいろんな店の人たちがそこに物を持ち寄って、それが紹介半分でよければ買ってくださいね。みたいな、そんなようなゆるい感覚でやると、非常にいろいろなところの商品やいろいろなものが並ぶ可能性があるのです。しかも、みんながみんな、じゃあ、一品の人もいれば三品持ってくる人もいればっていうそういうようなにぎわいの作り方って、可能なのではないかなと思います。ざっくり言うとそんな感覚。３番目の指定管理に関してなんですが、これが非常にやっぱり悩ましくて、ここら辺皆さんがおっしゃるように、やは

りその指定管理っていうものにどこまで権限を与えられるのかというところ。もっと言えば、どこまでの範囲で任せられるのかっていうところが非常に悩ましいと思います。冒頭にも言った通り、やっぱりソフトが大事で、ここを動かしていくものっていう一貫した建物全体としての方向性っていうものと、そこの事業者がそれを共有できた上で商売を成り立たせるっていうのは非常にハードルが高いのです。皆さんがおっしゃっているように、そこのところのソフトコンテンツや方向性っていうのをきちんとやって、この時には必ず、松本市の財政支出とか、指定管理に預けるお金っていうのは、ある程度必要になってくると思うのですが、指定管理を任せたときに、とにかく人件費ないし固定費のある程度は松本市のほうで持つから運営をきちんとやってくれということであれば可能だと思うのですが、どこで線を引くかっていうところが非常に難しいところなので、ここは慎重になるべきだと思っています。先ほど言ったように、私はこういう感じで、みんなが持ち寄るような施設で楽しいっていうような部分に関しては、これは採算ベースに合わないです。なので、これをやるのはみんないいなって思っても、これを事業者に預けた時点でたぶん事業として成り立たない。ざっくり言うとそういうことなのです。ですから、ここら辺のところをどこで線を引くか。どこできちんとそれを任せるのか。引き受けるのか。それを一貫してどこかに預けられるところがあるのかっていうところが争点になってくるかというところで、書かせていただいたというところでございます。一通りですね。ちょっと皆さんの意見を、それぞれ発表していただきましたが、お手元に事務局のほうで用意していただいたパブリックスペースの活用案についてというのがありますので、ちょっとここに移る前に、今日１２時まででよろしかったですか。はい。いいですかね。皆さんの意見一通りいただいて、これから事務局の意見をいただきますが、その前に、ちょうど１時間経ったので、５分だけちょっと休憩を。すいませんイレギュラーですが、私がちょっと１時間ぐらいしかもたないですから、５分だけ休憩入れさせていただいて、ちょっとトイレ休憩を挟みたいと思います。よろしいですかね。はい、じゃあちょっと５分後にまた再開になりますのでよろしくお願いいたします。

【休憩】

職務代理　皆さんお集まりのようですので、再開をしたいと思います。それでは早速ですが、博物館学芸員による１階パブリックスペースの活用案についてということで、こちら事務局の方から説明をお願いいたします。

イ　博物館学芸員による１階パブリックスペース活用案について（事務局による資料３の説明）

職務代理　はい。ありがとうございます。今説明をいただいたのですが、事務局の他の担当の方で補足でしたり、何か追加があればお願いしたいのですが。いかがですか。館長さん大丈夫ですか。今日、まだ発言が少なくてちょっと寂しいのではないかなと。いかがですか。大丈夫ですか。はい、ありがとうございます。ざっと今説明していただいたのですが、ちょっとこれで皆さんのほうから今の説明を受けて、質問や意見があればと思いますがいかがですか。ざっくり全体はちょっと広範囲にわたってやりたいことがバーッとこう書かれている段階で、まだ整理がそこまでできてない段階だとは思うのですけれども、ある意味、私たちが先ほどそれぞれ発表させていただいたところと結構かぶっているところもあればというところだと思うのですが、今非常にそうなるのも必然なのかなと。みんながやっぱ

り白紙の段階で思いを書いてくれば、やっぱりこういうことにはなるのかなというふうに思います。ちょっと指定管理の話にまた戻るのですが、非常にこの博物館の指定管理が難しいっていうのは、大体、指定管理をやることが決まっている指定管理も多いのです。引き継ぎっていうのをやっぱりやって、今までは市がやっていたけれども、その業務を民間にゆだねるっていうのは非常にスムーズに指定管理にいけるのですが、今回のこの博物館に関しては、全く今までとは違う内容。そして、全く新しい場所での指定管理っていうことで、その１階のスペースに関しても、前例がないというか、あまりこの周りでも前例がないというような事例になってくるのかなというところも踏まえていくと、これを見れば見るほど、やっぱりそういった難しさを感じざるを得ないかなと思います。私は感想としてそう受けたのですが、皆さんのほうはいかがですか。何かあれば、A委員も、アムステルダムの事例も出されておっしゃっていましたが、ちょっと思いの延長でもいいですが。

A委員　失礼します。たくさんアイデアが出ていて、まず、安心するというか嬉しいです。それが最初なのですが、加えて感じたのは、例えば、既存の枡形広場、或いは信毎さんの施設であるとか、周辺に割と類似した機能を持ちうる空間もあったりして、そんなところとどう差別化してコンテンツを配置するかが、結構大切だろうということです。そういった点では、やはり、最後におっしゃっていましたけども、人の問題といいますか、職務代理者もおっしゃった通りですが、要は何をやるかということを差配するような立場の人、コーディネーターや、全体をデザインするキュレーターのような職能の人がこれに向き合えるかが鍵かなと思っています。何となく想像するのは、スタッフは増えず、一方、コンテンツはもう本当にこれだけあって、学芸の方は頑張っているのだけれど、あまりうまく全体像が伝わらず、疲弊するといった状態。それでは本当にもったいないので、全体をうまくデザインして、これだけ動いているのだということを、市民へ、さらにその先へとアピールする能力を持った人を雇用する必要があるだろうという印象を抱きました。それが一つです。それで、もうちょっとゆるいことで申し上げると、私、一応イタリア美術史研究をやっていまして、イタリアに行くと、なによりも広場が楽しいですよね。広場がとってもいいなって思うのはなぜかっていうと、憲法に守られたイタリアの景観がそもそも美しいからっていうのもありますが、それよりも、住んでいる人たちが広場ではなんとも素敵に見えるというのが大きいです。広場でウロウロしておしゃべりをしている現地の市民たちがじつに楽しそう。そうしたある種の「みせびらかし」というか、姿を見せる場に、この１階がなるといいのではないかなと思っております。こんなに松本の人たちは町中の交流の場で楽しんでいるとか、学ぶことを楽しんでいるとか、それが観光客に伝わる、伝播するということです。観光客にダイレクトに何かアプローチするというよりも、市民に、というところを改めて強めていくことが、結果的にとても大切なのではないかなと感じました。以上です。

職務代理　はい。ありがとうございます。皆さんがちょっと考えて、もう１回整理している間、私の今やっている事業の経験の中から話をさせていただきます。今、試験的に安曇野にオープンした施設の方で、そこは町の駅っていう名前でやらせてもらっているのですが、そこは、ちょっと実験的に売り場の一角をクラフト系のもので、地域の松本の方も含めて、そういった作家さんの商品なんかも並べて委託販売をしているのです。これがどのぐらい動くかなと思って７月から事業が始まっているのですが、やっぱりそんなに動かないのです。正直言うと。こういったものって、多分、好き好きだったり、そういう嗜好の問題だったり、いろんなものがあるので、一般土産のように利益率を上げていく商品はありえな

いというのが一つ。ただし、やっぱりそれを見に来る人や、何かこう立ちどまる人たちが増えているのです。なので、ちょっとミュージアム的ですね。一角にインフォメーションや何かも設置しているので、そういった情報を取りに行きながら、文化に触れていただくということからすると、まさしく安曇野市のほうの指定管理についても私どもでやっているのですが、そういった意味合いでは地域貢献にも繋がっている。というところは言えるかなと。それも、やはりその指定管理の中で、ある程度家賃が抑えられているからできることなのです。ただ、これを利益のほうに誘導して、全部利益で戻ってくるような運営をしようと思えばできるのですが、やっぱりそういうふうにしてしまったのでは、その施設が背負っている意味がないと思って、私どもはそういうふうにやっているのですが、そういう実験的なことも含めて、ちょっと観光客で動きが鈍いっていうのも今はあるのですが、これで観光客が来れば、もうちょっと動き出すかなと思いながら、ちょっとその辺も参考になればというところでお話をさせていただきました。今のA委員の話でもいいですし、事務局の提案、発表の中でもいいですが、他の委員の皆さんいかがですか。C委員お願いします。

C委員　再三になっちゃうかもしれないのですが、やっぱり単館としての事業収益というか、そういうところに何か求めをしていくとやっぱりなかなか難しい。だから、例えば今あった中では、いわゆる団体とか、業種ごとに何とか組合だとか、商工会議所の中でも、例えばお酒について言えば酒造組合だとか、飲食関係だと飲食店組合だとか、そういう一つのグループが個店と繋がるのではなくて、そういうグループとの中でもって、博物館の目的というものをきちんと共有しながら、それぞれの業種をグループの中で高めていくような形の使い方をされていくのがいいのかなと思いますので、やっぱりどうしても物理的にもスペースが限られている中で、本当にあれもこれもっていうのはやっぱりなかなか難しい。どうしても限りがあるので、誰かが何か一つのことを主張し出せば、それはつまずくことになってしまうと思うので、やっぱりもう緩く、大きな団体同士で話をしていくっていうのが私はいいのかなっていうふうに思うのです。指定管理等のことについて、やっぱりいろいろ分野ごとに何かしていかないと、全部を取りまとめていくっていうのはやっぱり難しいのかなと思います。

職務代理　はい。ありがとうございます。そうですよね。今のところもやりたいこと全部出てきている状態だと思いますので、その辺ブラッシュアップしてくるところだと思いますが、他はいかがですか。D委員。

D委員　はい。学芸員さんのアイデアがいっぱい出てきて、これわくわくすると思いました。できるものできないものあるけれど、年間53週あるので、どう割り振って、固定化していくものと、定番のものと、スポットのもとで整理しながらやれたらいいのですが。ただ、組織的になんか運営をしっかりやっていくのはしんどい組織かなと思うので、そこがしっかりできるようにマネジメントする方がいてくれて、それをこう声かけてくれる、支えてくれる人たちがしっかりいれば、学芸員さんたちの活躍はすごい。いいですねこれ。これ読んで今日一番ワクワクしました。笑うところじゃないのですが、これできたら本当にいいなと。いつも、何か思いを持って博物館に集まってくれている人たちを、やってみたいことは実現させてあげたいなあと思いまして、そんな意見という感想でしたが。はい。そんなことです。

職務代理　ありがとうございます。私もいろいろ町の中の動きなんかを見てくる中で、実はここに書いてある事って、結構市民団体でやっているような方って多いのです。ただ、これが有

機的に結びついていなかったり、それをコーディネートできていなかったりで、もっと言えば、コーディネートされたくない人たちも、実際たくさんいると思うのです。松本は一人一人みたいな、なんか私はそういう感覚を持っているのですが、やっぱりこう組みたがらない人たちも多いっていうのも感覚としてあって、ただ、私も、市民サポートセンターが立ち上がるときの初期の段階で関わらせていただいたことがあったので、流れなんかも見ていると、やっぱり松本市って本当に市民団体がたくさんあって、その団体に手を出していなくても、活動されている方ってたくさんいるので、そこをきちんと人材バンクみたいな形で、これは地域のお宝だと思うのです。それをきちんと取りまとめていくっていうか、この中で活用させていただきたい人たちをここに集結する場というか、集積地になっても面白いのかなって、そんな意味も込めて、市民サポートセンターがブラッシュアップしたらいいのではないかっていうふうにちょっと申し上げたのですが。なので、そんな感覚を私はちょっと思っているのですが、いかがですかね。その辺、B 委員なんかもう、過去、今まで関わってきた中でも、ちょっと感じられているところなんかありますか。

B 委員　おっしゃる通りだと思います。私も見ていて思うのですが、例えば市民学芸員の皆さんたちが出てくる。そういう形の中でいろいろとやっていただいているのですが、やはり一番の問題っていうのは、比較的お年を召した方たちがそういうところへ入られてきていることが多いのです。ある程度年数が経つと、どうしても下火になっていく。なので、ある程度盛り返していくっていう形の中で、先ほどもご提案があったように、本当に若い小中高、特に高校大学あたりの皆さんが、表に出てきていただけるような、そういうシステムをやっぱり作ったほうがいいと思うし、先ほどからお話が出ているように、市の感覚というか、公務員さんの感覚ではないコーディネーターみたいな方がやっぱり必要ではないのかなっていうのは感じます。以上です。

職務代理　はい。ありがとうございます。何か。他にご意見あればなんですが。小中学生の観点から、そういったご意見もちょっと多かったと思うのですが、G 委員の方で何かありますかね。

G 委員　やっぱり学芸員さんの事業案がとてもすてきだなあと思っていて、この中で、学校におろすときには「えっ」って思われないようおろしていただければいいのかなって思いました。これはおまけですが、やはり今のお話と同じで、この博物館の中のすばらしい企画と、それから、この周辺部とのリンクっていうところで、誰がどういうふうにプロデュースしていくのかっていうところが一番大事かなってことで、今誰だろうといったときに思いつかないところが、やっぱり難しいなってことを思いました。はい。以上です。

職務代理　ありがとうございます。多分、今子どもさんたちを取りまいている環境は、昔と大分変わって来ていると思うのです。昔だったら課外活動だったり、少年野球だったり、小学生や中学生とかの部活とかっていうのも、大分関わり方が昔と変わってきていますよね。今後ますます多分そこから離れて、専門的な人たちに任せるとか、そういうのが多分加速していくと思うのですが、そういう一環の中で、例えば、それ地の利とか、その立地的な問題もあると思うのですが、子どもたちが常に集うような環境の整備だとかそういった可能性っていうのは何か考えられますか。

G 委員　そこまでは想像つかないですね。ただ、いろいろなところで子どもの取り合いをしているっていうところがあります。少なくなった子どもをいろいろなグループが募集していて、そして、やる気のある子が幾つにも顔を出しております。ですから、学校の授業として学校で抱えているのであれですが、今のような休日、放課後のようなところについて

は、難しいなということ。

職務代理　子どもも忙しい時代になってきたってことですね。ありがとうございます。F 委員からも一言いただいていいですか。

F 委員　　そうですね。やっぱ自分の中の博物館っていうイメージ概念が一つあって、先ほど博物館とはという A 委員のお話の中で、市民のミーティングプレイス、そこで市民が出会って、市民がそこでミーティングするっていうその定義で考えると、全然違うことをまた考えられるなって思って、発想がうんと広がるなというふうにも思っていました。大都市へいくと、何とか近代美術博物館だとか、自然博物館だとかそういうのをイメージすると、何かある意味厳格な雰囲気の博物館を思い浮かべちゃうところがあるのですが、松本市の中にある、本当に、観光客も寄りたくなるような場所っていうのは、市民が元気で生き生きしているっていう、それで市民がこうやって出会って、そこでいろいろと活動しているっていう姿を見せるっていうのも確かにありだなと思って、それをインプットした上でこれ見ていると、面白そうなことがいっぱいあるなというふうに思っていたところです。以上です。

職務代理　ありがとうございます。本当にこう、何をきちんと吸い取って、それをいかにコーディネートするかっていうところが大事なのはもう明白だなというふうに思っています。博物館のにぎわいを作るとか、何か私もこの役を仰せつかって、ちょっといろいろ全国の博物館の事情だったり、簡単に言うとランキングなんかもちょっと調べたりしたのですが、もう明らかなのですよ。何がランキング化されているかっていうと、美術館も含めていうと、松本市美術館って結構上位に来るランキングが多いのです。いろんなランキング見ていても、そこに並ぶところってもう明らかで、一つは明確な売り物があるところ。要するにキラーコンテンツをもっているかどうかっていうのがあります。もう一つは、テーマがしっかりある。この二つなのです。結局、こういった郷土博物館だとか、例えばその地域の歴史を紹介しますみたいなところって、やっぱりそのランキングには到底入りようがないのです。だとしたら、そこに力点を置くっていうよりは、やっぱり博物館としてどうあるべきなのかって根底に変えたときに、じゃあ誰に対して発信したいのか、何のために作りたいのか、何のためにこれを運営したいのかっていうところを、実は根幹的な部分っていうのが見直されるべきで、必死にそういったところに人を集めよう集めようってことを考えるよりは、本質をきちんとわきまえた上で、何がそこに必要なのか、そこににぎわいを作るためにはどうしたらいいのかっていうのをきちんと整理する必要が僕はあると思っているのです。そんな中でもう一つ、指標になるお話をしますと、先ほど来私が言っている業務委託で、要するに委託販売をした時の手数料、仮に 15%をもらった時っていうのを考えたときに、幾らの商売をすればその 15%になるかっていう話をすると、1 億売って 1500 万が入ってくるのですね。1500 万で、1 年間の運営すべてやっていかなきゃいけないのです。というのは 1 億売ったときの話なのです。これで考えると、商売ってなかなか難しいなっていうのが、なんとなく想像はつくと思うのです。それも含めた中で実際やりたいことと、それを実現するための何が必要かっていうことをきちんと整理していく段階に段を踏んでいくっていうか、そういう作業は必要ではないのかなっていうような気がします。ただ、できないっていうところから入るのではなくて、やるためにどういうことが可能なのかっていう議論を僕はしたいなというふうにずっと思っていますので、やりたいことをきちんと明確にした上で話が進んでいけば面白いのかなというふうに思っています。そんなことも踏まえながら、ちょっとせっかく時間があるので、事務局の方も踏まえて、

ざっくばらんなディスカッションみたいな感じでできればいいと思うのですが、まだ本当に初期の段階だと思いますので、文化の兼ね合い、美術館の関係もずっとやってこられた小口さんの方からちょっと何か成功例じゃないけど、経験談を踏まえて話をしてもらえますか。

小口課長　はい。ありがとうございます。今ご紹介いただきました通り、私は美術館のほうに通算で５年ぐらいいました。ということもありまして、今は観光という視点で、参加させていただいているわけなのですが、美術館が先ほどから出ている指定管理について、Ａ委員も先ほど触れていましたけど、学芸部分については直営ということであります。それと、ショップ等、あと施設管理、あと警備といったところは、財団の方に指定管理を出しているということでありまして、二階建て方式という言い方を我々していますけど、作品の保管、展示、そして教育普及、ワークショップといったところ、そういったところは市が直営で責任を持ってやっていきます、草間さんの作品を初めとしまして、非常に貴重な作品をお預かりしている市民の財産をお預かりしているといったところは、これはしっかり市の方で管理をしていかなきゃいけないといったところで、それを直営にしていくといったところにしています。あとは先ほど言いましたワークショップ、そういったところも、これ美術館・博物館は全国的に皆共通認識なのですが、ワークショップですとか、そういった市民参加といったところは非常に重要視しているということで、それも市が直営で学芸員がやっているといったところであります。２階建て方式ということで、今、指定管理のほうは松本市文化芸術振興財団が受けておりまして、この財団につきましては松本市民芸術館、或いは音楽文化ホールといった、音楽とか舞台芸術をやっている財団でありますので、そこと、財団の中で繋がっているということで非常に連携がしやすい。根っこの中では繋がっているということなので、そういった意味では、Ａ委員も言ってらっしゃいましたけど、そういったところの指定管理っていうのも、非常に連携していろんなことができるのではないかなといったところは個人的には思っているところであります。あと、やはり共通認識だと思うのですが、学芸員の能力っていうところが非常に大事ではないかなと。松本市美術館も当初はやっぱり、スタートは同じだと思うのですが、成長していって、今の学芸員の力というのができているというところだと思いますので、学芸員の力は非常に重要だろうというふうに思っておりまして、先ほど千賀学芸員のほうから代表して学芸員の事業案をお聞かせいただきましたけど、非常に斬新な、虫フェスなんて言ってですね、虫の試食会なんていうアイデアが出てくるっていうのが非常に斬新だなあというふうに思っていまして、こういった学芸員の発想力っていうのも、生かしていけたらと思いますし、その学芸員をどうやって組織していけばというのが多分課題かと思うのです。なので、雇用しやすくする組織・運営はどういったものかというのを、皆で考えていく必要があるのではないかと思います。美術館のほうでちょっとやりたかったのは、展示部門と教育普及部門とそれぞれ専門性を持った学芸員で分けて、それぞれに一つの係っていうか、別々の係でやっていくっていうのも一つの方法かなと、美術館にいるときはちょっと思っていましたので、そんな組織体制も必要なのかなというところはちょっと感じた次第であります。私からは以上です。

職務代理　はい。ありがとうございます。大変参考になる意見だと思うのですが、市民のそこで行われている、何かこう発信するようなものって、結構頻繁ににぎわいができているのですか。

小口課長　はい。美術館は年４回企画展を開催していまして、町と一体となるということも視点と

しては入れていまして、例えば企画展によっては飲食の方と連携をしてやっていったりとか、ポスターも自分たちで、職員が町にお願いに行ってポスターを貼ってくださいとかっていうところで、また皆さんとのコミュニケーションも取ったりしているというところもありますので、そういった中で、町と一体になった展覧会っていうのを日頃は意識をしています。それと、もう一つ先ほどからショップの話が出ておりますが、松本市美術館は、ミュージアムショップを第3の展示室という位置付けにしています。なので、展覧会を見た人が、またショップによってまた楽しんでいただくといった視点も実は非常に大事にしていまして、企画展に合わせた商品の販売をするとか、それも先ほど言ったところみたいに、例えば、以前、開運堂さんで何か商品を開発してもらったとか、そんなような連携もしているということであります。参考になったらということでありますが。

職務代理　はい、ありがとうございます。非常に参考になる部分が多いのではないかなというふうに思います。多分、美術館に比べれば立地的にはすごくやっぱり地域の町中に近いところにあるので、そういった連携も本来であればしやすいことだなんていうふうにはちょっと思いました。委員の皆さん他に何か。ちょっとこう、本当にざっくばらんな話でもいいと思うので。はい。A委員お願いします。

A委員　　たびたびすいません。ざっくばらんな感じで。ふつうの美術館の場合、お客さんはどうしても特別展・企画展に足を運びますが、松本市美の場合は、草間彌生さんの展示がありますから、常設の来場者も多く、ある意味ではバランスの取れたミュージアムとして活動されています。で、松本市博さんの場合は、あえて比べるならばより常設にウエイトを置いて、もうちょっと言うと、いっそう市民の方が訪れるミュージアムへと向かっていこうという、そういう前提でよいでしょうか。であるとすれば、例えば、開館時間、先ほどちょっと話が出ましたけれども、これやっぱり大きな要素ですよね。どなたかのアイデアに、松本バーとして金曜日19時から20時の夜間開館なんて書いてあって、そうした開館時間の調整は、すごく大事なのだろうなと思って聞いていました。はしごができるっていうか、午後、美術館を見た後、博物館でお茶が飲める、それこそビールも飲めるぐらいの時間設定で、市民が憩えるといいですね。それともう一つ、松本らしさってどうやって感じるかといえば、やはりまちなかですから、お城と博物館と美術館の三角形の内側のエリアを全体的に考えるほうがいいと思います。例えばそのエリアに3施設関連の複合ショップやカフェがあってもいいのではないかとか、この委員会の範囲ではないと思いますが、そうした視点で問題をもっと開いていけると良いのではないかと思います。そうした議論のなかで、先ほど少し話しましたが、芸術文化振興財団のあり方なども協議する必要があるのではないかと思うのです。ところで、まったく別件ですが、新博物館は、いわゆる公開承認施設として準備が着々と進んでいるという理解でよろしいでしょうか。そうした館のあり方と、１階の活発な動きというのは特段問題なく、調整・共存可能という理解でよろしいでしょうか。

職務代理　館長さん。

木下館長　全く問題ないというふうに考えております。ちょっとまだ私の頭の中だけですが、やっぱり１階の部分、先ほどもお話が職務代理の方からありましたが、１階の部分を、市民の皆さん、市民学芸員の皆さんとかってやるところを、指定管理では出せないなと思っています。一番大事なところだなっていうことは、私たちも思っておりまして、市民の皆さんと情報発信をしていくところに、やはり、コーディネーター的な役割を担う学芸員を配置していかなければいけないのだなと思っています。あとは資料管理をきちんとして、常設

展示に反映をしていく。それから特別展・企画展を構成していくっていうのは、大きく三つぐらいの仕事があるのですが、一番重要なところは市民の皆さんと関わりを持つ、その部分なのかなと思っていますし、A 委員がおっしゃったように、市民の皆さんにまず博物館に来ていただく。その市民の皆さんが松本の魅力を発信していっていただくっていうところが、博物館が貢献をできるところなのかなと思っています。それで学芸員が、今なかなか小口課長が言ったようにうちは育っていないという部分があるのですが、一つは今日提案をしたものを皆さんに受け入れていただいて、たくさん、いいアイデアだと言っていただいたことは非常に私としてはありがたい嬉しいなと思うのです。学芸員は専門性を一つ持っているのですが、研究者に対しては専門選択しないといけませんが、一般の市民に出すときにそれと一緒ではいけない。難しくなっちゃうとやっぱり駄目なのだろうなっていうところを、いかにそれを、職務代理者がおっしゃるように、楽しそうに見せるかっていうことがやっぱり大事だなというふうに思っています。そんな形で市民の皆さんが、まずプレーヤーになっていただくような形っていうのを重視している。もう一つちょっとショップの関係で少しあったところで、売りたいものと売れるものが違うという話でまさにそうだと思うのですが、私はやっぱり七夕人形を例に取ると、七夕人形がもうほとんど下火になっている頃に七夕人形を売りたいというふうに思って七夕人形を作るキットを作りました。私たちは商売が下手なものですから、ほとんど儲けがない状態でも 1000 円ぐらいで、1000 円以上かかっちゃうと皆さん買ってくれないので 1000 円でずっと、ほぼ赤字にならない程度で進めてきたのですが、これを 15 年も続けると、今まで七夕人形を売ってなかった人形屋さんもこれを作ってみようということで、商業ベースに乗せて、私たちよりも販売価格を下げてやられる。この形になれば、私たちはもうそこから手を引けばいいということで、そういうところを、少し儲けがなくても、取り掛かっていくのは、私たちの仕事なのかなっていうふうに思っています。そんなところで、長い時間をかけて、そういう、先ほど組合で全体でというお話もあったけど、そういうところに貢献ができればいいのかなと思っています。長くなりました。ごめんなさい。

職務代理　はい。ありがとうございます。G 委員、お願いします。

G 委員　　先ほど小中学生とか若い世代ってことを考えていまして、小学校にもいろいろな募集が来たときに、選ばれたお子さんの展示作品、例えばお城や開智学校のある絵とかああいったものがどこに飾られるのか。今までもいろいろな場所にあったのですが、入賞したお子さんに名前が入って「ここで飾られていますからお出かけください。」っていう案内が個人に行きます。そうすると、ほとんどのご家庭が親子連れで行きます。今までいろいろな場所がありましたが、積極的に、可能な限りその展示場所として博物館を利用するってことはもっといいのかなって。言いたいことは、小学生の場合だとやはり親子でということなるので、特にお母さん世代を意識した、そういう導線というか、誘導が必要かなってことを思います。それから、小学校高学年から児童会役員、中学生、高校生、松本にも子供未来委員会っていう形で動きがありますが、本当に意見も素晴らしいですし、今日、私たち今話し合っているようなことも、やはりそういった未来委員会のテーマに取り上げていただいて、学生の皆さんに、こういう話し合いに参加してもらい、今年は博物館ってことでとか、郷土を知るってことでどうでしょうかっていうような、そういう集いがあると、将来に向けて本人たちがまず意識してくれる。かなり力もあるし、本当に関心が高い子供たちがいっぱいいるなんてことを、取り組みの要請や成果をみて思います。待っている間のお母さんお父さんが、ふらりと博物館の中なんか見ていただくとか、可能性も出てくる

かなあと思います。既存の会合の場所として博物館を積極的に提供するっていうのがいいのではないかなと思います。最後です。本校にも、ふるさとＣＭ大賞にずっと松本市として出している職員がいます。それから蟻ヶ崎高校とか、他校でもデジタルコンテンツとか、ああいう本当素晴らしいものがいろいろあって、改めて見てみたいなと思うのです。ふるさとＣＭ大賞は松本のものなのか、その本人のものなのかわかりませんが、また見たいと思っても、また見ることができない。ですから博物館のその収蔵の中にそういった過去の松本のそういうＰＲのものとかもあって、ここ行くと、定期的に見ることができるとか、そういう企画を取り上げていただくとか、そのような内容はどうかなってことを思いました。以上です。

職務代理　はい。ありがとうございます。金井先生も先ほどの館長さんのお話は大丈夫ですか。はい。いい時間にはなってきていますが、皆さん他にこれだけはちょっと言いたいぞっていうところがあればですが、いかがですか。今日、全体としては、皆さんのアンケートをもとに、１階のパブリックスペース並びに飲食物販の活用方法ということで、議題として、会議を進めて参りましたが、本当に言えば、フリーハンドでいろんなものが出てきている段階で、ただし、皆さんのご意見を今日伺っている中でいくと、しっかり締めるべきところはきちんと締めながら、任せられるところは任せていくっていう中で、一つはその美術館の今のあり方っていうのが、一つのモデルにはなっているのかなっていう中で、博物館として何を伝えていくのか、何をもってハブとしての博物館を組み立てていくのかっていうのは、何となくですが方向性が見えてきたのかなっていうような気はしております。これからこの松本の博物館が、市長さんの言葉を借りると、この歴史観光エリアっていうところと、新市街とか生活エリアで駅前周辺のちょうど境の中で、立地的にも非常に大きな役割を担うことになるだろうなというのと、先ほど来出ている観光客なのか地元なのかみたいな議論というのは、今の時代、昔に比べてそこの境ってあんまりなくなってきているような気がしますね。というのは、観光客の皆さんも結局地元のそういったものに触れたくて来ているので「皆さんどうぞ。」っていうものにはあまり興味を示さないのですね。そのいい例がお土産物なのですが、観光客向けに出しているお土産ってそんなにみんな手を出さなくなっているのです。それよりも地元の人たちが食べている食だったり、触れている場所だったり、というところに興味を示してきている。だからもう、昔に比べて、実利とか質みたいなところを重視しているというのが今の流行りかなっていうことも含めると、やっぱり地元、食、地域食、地域の人たちのにぎわいというのは、大きく言うとポイントになってくるのかなっていうのが皆さんの意見も踏まえて何となく今日感じたところであります。ちょっと勝手になんとなくまとめたような感じになっちゃいましたが、皆さん付け加え大丈夫ですか。Ｄ委員、大丈夫ですか。はい。事務局のほうから何かお知らせとかその他案件があれば。よろしいですか。司会の方に１回戻したいと思います。すいません急遽の司会等ありましたが、皆さんのご協力のもとに何とか終えることができました。ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

中原課長　山村職務代理、また各委員の皆さまありがとうございました。続きまして次第の４番その他でございますが、第４回の次回の会議ということでございますが、９月議会の関係上、ちょっと 10 月の上旬で、また委員長とも話をしながら日程を調整させていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いをします。また後日メール等でお送りさせていただきますのでよろしくお願いします。それでは以上をもちまして、第３回松本市基幹博物館１階活用市民会議を終了いたします。本日はありがとうございました。